令和５年度　岡山県学力・学習状況調査結果の概要

１　調査の実施状況

（１）　調査の目的

個々の児童生徒の学力・学習状況を全国比較及び経年比較することにより、教育指導や教育施策の改善を図る。

（２）　調査実施日

令和５年４月１８日（火）

（３）　受検者数・受検校数・実施教科等

※質問紙は県独自調査

	県受検者数　（受検校数）	全国受検者数	実施教科等
小学校第３学年	９，１５７人　（２７８校）	約　７万人	国語　算数
小学校第４学年	９，１７７人　（２８１校）	約　９万人	国語　算数
小学校第５学年	９，３４２人　（２７５校）	約１１万人	国語　算数　質問紙
中学校第１学年	９，６０２人　（１１７校）	約　９万人	国語　数学　英語　質問紙
中学校第２学年	９，２２７人　（１１６校）	約１０万人	国語　数学　英語　質問紙

２　学力調査の結果

教科・学年別標準スコア

全国の平均正答率を５０（全国値）としたときの換算値

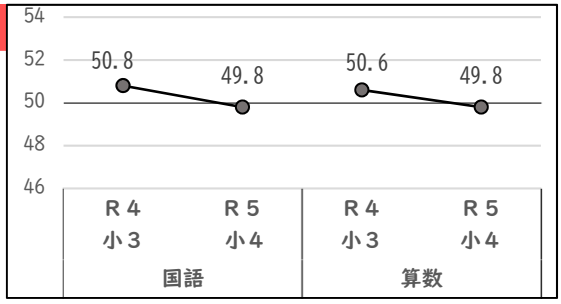
	国語					算数・数学					英語	
	小学校			中学校		小学校			中学校		中学校	
	３年	４年	５年	１年	２年	３年	４年	５年	１年	２年	１年	２年
Ｒ５	50.1	49.8	49.7	51.1	50.7	51.1	49.8	48.4	50.2	50.5	50.2	50.4
Ｒ４	50.8	50.7	50.2	50.8	50.6	50.6	50.6	51.3	51.4	51.4	—※１	49.9
Ｒ３	50.4	50.9	50.8	51.6	51.5	50.5	49.6	49.9	50.5	50.9	—※１	51.1

※１　Ｒ３・４は実施なし

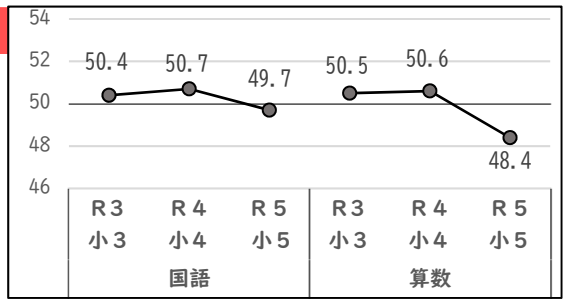
同一集団における標準スコアの推移

●…県調査　◆…全国調査

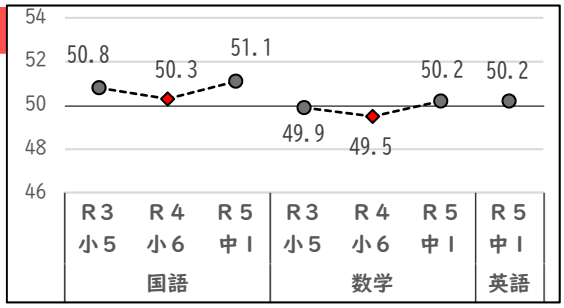
小４



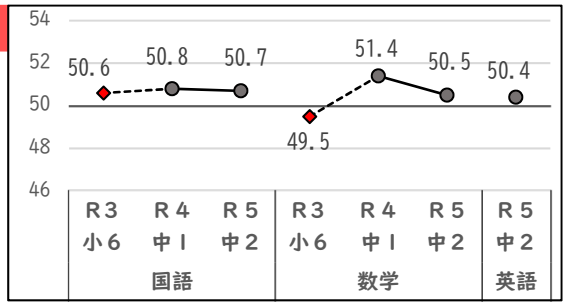
小５



中１



中２



○小学校の３年生及び中学校の１・２年生の全ての教科で全国値を上回った。中学校の同一集団における標準スコアの推移は、１年生の国語・数学で上昇した。
▲小学校の４・５年生は全ての教科で全国値を下回った。同一集団における標準スコアの推移は、小学校４・５年生の全ての教科、中学校２年生の国語・数学で下降した。

３　学習状況（質問紙）調査の結果（岡山県独自の調査のため、全国平均との比較はない。）

※各質問項目は、質問紙調査の質問文をそのまま用いている。

授業理解・学習習慣

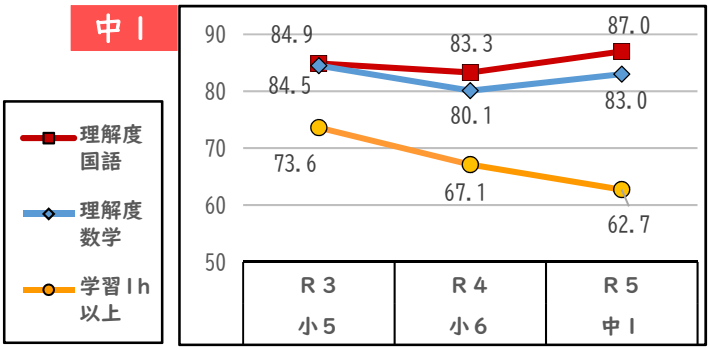
①　国語の授業の内容はよく分かる。（理解度　国語）
②　算数（数学）の授業の内容はよく分かる。（理解度　算数・数学）
③　学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習１ｈ以上）

《年度ごとの肯定的回答割合〔単位：％〕》

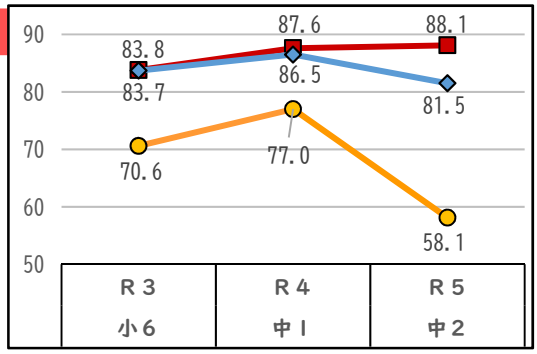
	小５			中１			中２		
	理解度 国語	理解度 算数	学習 1h以上	理解度 国語	理解度 数学	学習 1h以上	理解度 国語	理解度 数学	学習 1h以上
Ｒ５	89.2	85.5	56.3	87.0	83.0	62.7	88.1	81.5	58.1
Ｒ４	84.9	84.4	65.9	87.6	86.5	77.0	88.4	81.7	68.8
Ｒ３	84.9	84.5	73.6	88.2	88.2	81.2	86.5	82.0	73.2

《同一集団における肯定的回答割合の推移〔単位：％〕》

中１



中２



○「理解度」の同一集団における肯定的回答割合は、中２の数学を除いて上昇した。
▲「学習１ｈ以上」の肯定的回答割合及び同一集団における肯定的回答割合の推移は、Ｒ４年度と比較して、全ての学年で下降した。

学びに向かう力

④　学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。（自己調整力）

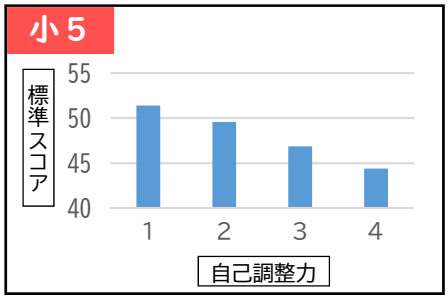
※　Ｒ３は「自己調整力」の項目なし

	小５	中１	中２
Ｒ５	70.1	73.8	68.1
Ｒ４	75.5	78.3	70.1

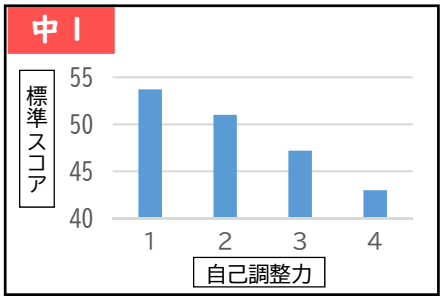
《「自己調整力」と「標準スコア」のクロス分析》

※　クロス分析で用いた「標準スコア」の数値は、小５では国語・算数、中１・２では国語・数学・英語の平均値

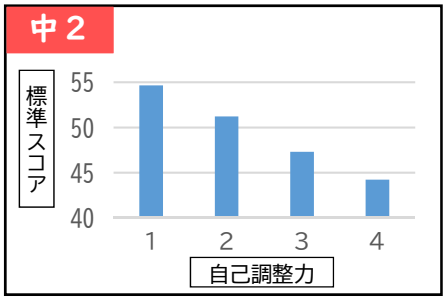
小５



中１



中２



［１：当てはまる　２：どちらかといえば、当てはまる　３：どちらかといえば、当てはまらない　４：当てはまらない］

・「自己調整力」と「標準スコア」のクロス分析では、肯定的に回答した児童生徒ほど標準スコアが高い傾向が見られた。

授業改善

⑤　授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。（主体的な学び）
⑥　学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。（対話的で深い学び）

《年度ごとの肯定的回答割合〔単位：%〕》

	小５		中1		中2	
	主体的な学び	対話的で深い学び	主体的な学び	対話的で深い学び	主体的な学び	対話的で深い学び
Ｒ５	71.9	76.2	76.9	77.1	74.4	79.8
Ｒ４	75.3	78.2	79.3	85.1	75.5	82.8
Ｒ３	75.4	78.8	81.1	85.6	78.7	81.9

▲　「主体的な学び」及び「対話的で深い学び」共に、肯定的回答割合は、Ｒ４年度と比較して全ての学年で減少した。

ＩＣＴ機器の活用

⑦　授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用しましたか。

《年度ごとの「ほぼ毎日」「週３回以上」「週1回以上～月１回未満」と回答した割合〔単位：%〕》

	小５			中1			中2		
	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上～月1回未満	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上～月1回未満	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上～月1回未満
Ｒ５	21.6	27.8	50.3	40.2	30.7	29.0	26.9	33.6	39.4
Ｒ４	*(54.1)*	－	*(45.3)*	*(66.6)*	－	*(32.8)*	*(50.3)*	－	*(49.3)*
Ｒ３	*(19.3)*	－	*(80.4)*	*(12.1)*	－	*(87.7)*	*(16.8)*	－	*(83.1)*

※　Ｒ３・４の（　）の値は、選択肢が異なるため、参考値

○「週１回以上～月１回未満」と回答した割合は、小５を除いて年度ごとに減少していることから、使用頻度が増えていると考えられる。

夢育

⑧　将来の夢や目標を持っている。（夢・目標）
⑨　自分には、よいところがあると思う。（自己肯定感）

《年度ごとの肯定的回答割合〔単位：%〕》　※2「夢・目標」の質問は、「１：当てはまる」と回答した児童生徒の割合

	小５		中１		中２	
	夢･目標 ※2	自己肯定感	夢･目標 ※2	自己肯定感	夢･目標 ※2	自己肯定感
Ｒ５	70.5	81.4	60.9	82.3	43.4	81.4
Ｒ４	69.7	80.8	60.0	79.8	43.5	74.8
Ｒ３	70.1	79.6	57.8	77.6	44.3	74.8

○「夢・目標」の「１：当てはまる」と回答した割合は、ほぼ横ばいであった。「自己肯定感」の肯定的回答割合は、Ｒ４年度と比較して全ての学年で増加した。

今後の取組

※　岡山市を除く市町村の公立小・中学校及び義務教育学校、県立中学校等を対象としている。

全国及び岡山県の実施概況から、次のような成果（〇）と課題（▲）が考えられる。

〇１「授業改善」に関する質問紙の結果から、各学校において児童生徒の学ぶ力の育成に向け、主体的・対話的で深い学びを意識した授業づくりが進められている。
〇２「夢育」に関する質問紙の結果から、各学校の課題に応じた学校経営アクションプランを基に、学校全体で自己肯定感の向上を図る取組が進められている。
▲１小学校算数、中学校数学・英語において、正答率40%以下の割合が全国値を上回ったことから、つまずきの解消が必要である。
▲２中学校の「学習習慣」に関する質問紙の結果から、生徒の家庭学習時間の確保とともに、主体的に家庭学習に取り組むに当たっての仕掛けが必要である。
▲３「ICT機器の活用」に関する質問紙において、「ほぼ毎日」と回答した割合が全国値を下回ったことから、児童生徒の１人１台端末の日常的な活用を促進し、文房具として「ほぼ毎日」活用する状況をつくる必要がある。
▲４小・中学校の「教職員の資質能力の向上」に関する学校質問紙の設問における全国との差から、校内研修等を充実させ、調査結果を踏まえた学校や個々の教員の課題に応じ、専門性を高めていく必要がある。

県教委の取組

（１）管理職の学校経営力と教員の授業力の向上に向けて【関連：〇１・２　▲４】
〇　学校経営アクションプランに基づく市町村教委と協働した「管理職のビジョンと戦略を支援する学校訪問」により、各学校の課題に応じた支援の充実及び授業観察を通した指導主事等の適切な指導の実施

（２）授業改善の推進に向けて【関連：〇１ ▲１・２・３・４】
〇　市町村教委及び授業改革推進チームと調査分析の視点を共有し、授業改革推進チームを核にした、児童生徒に付けたい力を着実に付けられる授業づくりの実現に向けた校内指導体制の充実と、授業改善に向けた対話のある学校風土の醸成を支援
〇　学習者用デジタル教科書等の効果的な活用事例等の提供による生徒の英語４技能向上のための効率的・効果的な授業づくりへの支援

（３）学習内容の確実な定着に向けて【関連：▲１】
〇　各学校において一層短いサイクルで学習内容の定着状況を確認し、当該学年で身に付けるべき学習内容の確実な定着を図るため、CBT（Computer Based Testing）方式による定着状況ウォームアップ（小学校）及び定着状況確認テストを提供・実施

（４）家庭学習の充実に向けて【関連：▲２・３】
〇　各学校及び個々の児童生徒の実態に応じた家庭学習の充実に向け、研修パッケージを市町村教委と共有するとともに、持ち帰りを含めた児童生徒の１人１台端末の効果的な活用による家庭学習の推進を図る好事例を収集・発信

（５）夢育・キャリア教育の推進に向けて【関連：〇２】
〇　総合的な学習の時間を核とした「岡山型ＰＢＬ」の推進と好事例の普及

各学校の取組

各学校において、各種調査結果から把握した実態を基に、学校や学級、個々の児童生徒の成果と課題を明確にし、次のような学力向上に向けた取組を促進する。

（１）授業改善の推進
〇　児童生徒に付けたい力が着実に付く授業づくり
・「岡山型学習指導のスタンダード【増補版】授業改善、『一歩先へ！』」を踏まえた単元を見通した指導計画に基づき、児童生徒に「学びを委ねる場」がある授業を実践
〇　各教科等での学習において、児童生徒が課題を自分事として捉え、他者と協働しながら課題解決を図るような探究的な学習の充実
〇　児童生徒の１人１台端末を活用した学習の個別化と個性化を図る取組を実践

（２）学習内容の確実な定着と家庭学習の充実
〇　一層短いサイクルで学習内容の定着状況の把握→つまずきの解消
・定着状況ウォームアップ（小学校）及び定着状況確認テストの実施
・学校全体で、個に応じた課題や一人一台端末を活用した補充的な学習指導等によるつまずき解消に向けた取組の実施
〇　持ち帰りを含めた児童生徒の１人１台端末の効果的な活用による家庭学習の充実

（３）夢育・キャリア教育の推進
〇　総合的な学習の時間を核とした「岡山型ＰＢＬ」の推進